

出会いのワゴン (後期)

今年度初めの出会いのワゴンのテーマは「家の本」です。六年図書委員の家にある本を複数紹介します。

『暗いところで待ち合わせ』 2-1

ある会社員が殺人の罪で疑われ、事態が収まるまで目が見えない女性の家で隠れ潜む物語です。表紙が若干ホラーな感じがしますが、内容は至って真面目なこのさんなので安心してください。海外の映画「この作品と似た主題のものもあるので併せてみてくださいませ〜」です。

『アキハバラ@DEEP』 石田衣良

「アキハバラ@DEEP」という小さな会社を立ち上げた六人の男女がA-の製作を発端に巨大な陰謀に巻き込まれていきます。全盛期の秋葉原を舞台にしている、その世界観を楽しめるのでおすすめです。

『流浪の月』 風良ゆう

読後涙を流し放心します。悲しいとは違うこの感情は何だろう、と考えさせられます。小児愛者の文と、被害女兒の更紗の二人により紡がれる本当の愛とは何なのかという物語です。彼女が本当に被害者だったのかは、当事者には分からない。優しい目で文と更紗の旅を見守ってあげてください。

『ゼンメツ少年』 重松清

「僕たちはこのままじゃ、ゼンメツしてしまいます」小説家のゼンセイに助けを求める3人のゼンメツ少年、タクシ、リュウ、シユン。居場所をなくした3人にゼンセイは救いの手を差し伸べる。驚きと感涙の傑作。

『また、同じ夢をみていた』 住野よる

主人公が、南さん、近所のアバズしさん、おばあちゃんたちと会うことにより、成長していく話です。言葉の言い回しがとても好きです。読み終えて、ある謎が解けたとき、驚愕します。

(六年)

「図書委員って何をやるの?」と尋ねられたら、次のようなことが思い浮かびます。

- ・貸出・返却・予約の手続き
- ・返却された本の消毒・元の棚に戻す
- ・ららららNEWS・出会いのワゴン・本のなる木などのPOP作成
- ・年三回の読書会の開催

今、この文章を読んでいるあなたも、いくつか思い当たるのではないのでしょうか。「図書委員って何?」と尋ねられたとき、その答えを見つげるために、「学校図書館とはなにか」について考えてみました。学校図書館は、生徒の学習活動を支援し、知的好奇心を満たし、心身の健全な育成の一助をなすものです。その機能を果たすために各クラスに1名ないし2名の図書委員と担当の先生方が存在します。

このことを考えると、図書委員は、図書館の運営の一部を担うとともに、私たち生徒が図書館で頼れる存在であるということが分かるでしょう。(そこを目標として日々精進しています)

私は、図書館の運営以外の点で、図書委員が頼られることが少ないと感じています。部活が忙しかったり、昼休みの時間が短かったりする中で、図書館にあるかどうか分からない本を見に来るのは大変だと思えます。そんな時こそ図書委員に、

「〇〇って本、図書館にある?」と尋ね、図書委員を大いに利用してもらいたいと思っています。



(五年)

新刊紹介

- 『自分だけの答え』が見つかると本』末永幸歩
- 『すいぞー!はたらく知財』内田朋子
- 『さみしき』の力』榎本博明
- 『麦本三歩の好きなもの2』住野よる
- 『学問の自由が危ない』上野千鶴子
- 『掃除婦のための手引き書』ヨシタケシンスケ
- 『にげてさがして』宇佐美まこと
- 『羊は安らかに草を食み』クリエ・シャボン編集部
- 『新しい世界』深緑野分
- 『この本を盗むものは』
- 『洪沢栄一君は何のために「働く」のか』バラク・オハマ
- 『約束の地大統領回顧録』町田そのこ
- 『52ヘルツのクワラたち』伊吹有喜
- 『犬がいた季節』伊与原新
- 『八月の銀の雪』勝田敏彦
- 『でたらめの科学』あさのあつこ
- 『ぼくがきみを殺すまで』
- 『243清陰高校男子バレー部春高編』壁井工力
- 『中流崩壊』橋本健一
- 『名作なんか、こわくない』柚木麻子
- 『流浪の月』風良ゆう
- 『△ゲンのー上』知念実希人
- 『コンジュシ』木崎みつ子
- 『わたしの好きな季節』川上弘美
- 『かなしきテブ猫ちゃん』早見和真
- 『その扉をたたく音』瀬尾まいこ
- 『ナイルパーチの女子会』柚木麻子
- 『学校図書館をハックする』
- 『古関裕而』
- 『鉄道の基礎知識』
- 『ムーミン』ミックス』
- トーベ・ヤンソン
- 刑部芳則

(四年)

出会いのワゴン (前期)

皆さんはもう、新しいクラスに慣れましたか？多くの人との出会いがあったと思います。そこで、今回の出会いのワゴンのテーマは、「出会い」にしました。私たちが思うそれぞれの出会いの本を紹介します。

『水滸伝』

運命で結ばれた百八人の豪傑たち。水郷地帯である梁山泊に集う彼ら。朝廷、権力による理不尽で荒れる世。そんな中、民衆を代表して支配者・支配体制にあらがう彼らの運命は？

『天使は奇跡を希う』 七月隆文

今治の高校に通う良史のクラスに天使が転校してきた。天国に帰れるよう協力することに幼馴染の成美と健吾も加わり、四人は絆を深めていく…。私を天国に帰して。」彼女のウソを知ったとき真実の物語が始まる。

『お探し物は図書室まで』 青山美智子

人生に悩む人々が、ふとしたきっかけで訪ねた小さな図書室。彼らの背中を、不愛想だけど聞き上手な司書さんが、思いもよらない本のセレクトと可愛い付録で後押しする。



『都会のトム&ソーヤ』 はやみねかおる

ゲームクリエイターを目指す秀才とサバイバル知識豊富な普通の中学生？二人組が挑む究極のゲーム制作…だが二人の前には伝説のゲームクリエイターや謎の組織が二人のゲーム制作を阻む!!二人は究極のゲームを作れるのか？

(三年)

今年の図書委員の目標!!

さあ！今年度がスタートして、皆さんはどんな目標を立てましたか？

図書委員では今年度の目標を昨年度の年間貸し出し冊数約6千冊を超える7千冊を目指す!!になりました。

昨年度のクラス別の貸出冊数の中で一番多かったのは旧1年2組で808冊でした！こんなに借りてくれてすごく嬉しかったです！

皆さんもこの旧1年2組さんの貸出冊数を超えるように頑張りましょう！

…そのために、たくさん借りる方法を一つ紹介します!!

まず、図書館の本であまり読んでみたいと思わない本を手にとってみて、まず読んでみる。すると、不思議なことに興味が自然と湧いてきて関連する本を探したくなります。

…これ『嘘おひ』と思うでしょうが、本当なのであります…試してみてくださいね

ちなみに4月の貸出統計では図書館オリエンテーションの行われた1年生、4年生が多く借りてきています。全校での月間合計は千冊を超えています！

私たち図書委員も早く仕事を覚え、いつでも皆さんのお役に立てるよう、たくさんのお来館を楽しみにお待ちしております！

(二年)



新刊紹介

『2030…すべてが「加速」する』

『2040年の未来予測』 成毛 眞

『航空機ビジネス図鑑』

『人新世の「資本論」』 斎藤 幸平

『逆ソクラテス』 伊坂幸太郎

『ハナコの愛したふたつの国』

シンシア・カドハタ

『ぬいぐるみとしゃべる人はやさしい』

大前 栗生

『金子と裕而』 五十嵐佳子

『鐘を鳴らす子供たち』 古内 一絵

『未来の自分に出会える古書店』 齋藤孝

『オードリー・タン自由への手紙』

『オードリー・タン デジタルとAI』

『ただかう免疫』 NHKスペシャル取材班

『14歳からの精神医学 新版』 宮田雄吾

『狙われる18歳』

『3.11を心』 刻んで 2021』

『泣いたあとは新しい靴をはこう』

日本ペンクラブ

『14歳の教室』 若松 英輔

『空気を読む脳』 中野 信子

『ほんとうのリーダーの見つけかた』

梨木 香歩

『たちどまって考える』 ヤマザキマリ

『何のために本を読むのか』 齋藤 孝

『人生で大事なことはみんな』

『ゴリラから教わった』 山極寿一

『クララとお日さま』 カズオ・イシグロ

(一年)

編集後記

私はJKという生き物が嫌いだ。自分たちが行っていることは正しいみたいなのに、あんなに日々生きていながら、あんなに顔何より常に周りと同じ調ある意味、協調性ともいえる習性が気に食わない。

私は、教師が嫌いだ。生徒に教えと説いて強制させる。少しばかり早く生まれて長どれだけの事が言えるのだろうか。

私は、「大人数」が嫌いだ。一人では行動できないのだろうか。私は、自分勝手に甘えたら人に合わせる事ができなくなる。私は、「協調」が嫌いだ。協調とは何に合わせるのだろうか。実際に協調、協調という人はしているのだろうか。自分勝手だ。

私は、後輩が嫌いだ。後輩に何をすればいいのだろうか。何かを与えることができるのだろうか。誰か私を慕うのだろうか。

私は自分が嫌いだ。すべてが悪く見えてしまつて。他人を素直に対面で褒めることができない。嫌なことがあると弱音を吐き周りに悪影響を及ぼす。そんな自分が嫌いだ。

でも嫌悪している対象が今の私を構成するすべてとしてこんな私が容認される世界に感謝しかない。

(委員長)

